※令和３年度以前入学生用

学校番号	1017

令和５年度　農業科

教科	農業	科目	生物活用	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「生物活用」　（実教出版株式会社）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

園芸植物（野菜や草花）の栽培について、座学と実習を通して、基礎的な技術・知識を学ぶ科目です。身近な暮らしの場における生物の活用による生活の質の向上と健康の改善を図ることをねらいとし、野菜の栽培や利用、加工、草花栽培の管理・利用の実習を通して、私たちが植物からどのような恩恵を受けているのかを知りましょう。

2　学習の到達目標

・園芸作物の活用に関する基礎的な知識と技術を習得する。
・園芸作物を活用した活動について興味・関心を高める。
・生活の質の向上と健康の改善などに関する効果に着目した園芸作物の栽培や園芸デザインの活動を活用する能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	園芸作物を活用した活動に興味・関心を持ち、課題の探究に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。	園芸作物を活用した活動に関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。	園芸作物を活用した活動に関する基礎的な技術を身に付け、園芸作物を活用した活動に関するプロジェクトを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	園芸作物を活用した活動に関する基礎的な知識を身に付け、園芸作物を活用した活動の特性とその重要性を理解している。
評価方法	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 実習記録表 レポート、発表 自己評価	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 実習記録表 レポート、発表 定期考査、実技テストの結果 自己評価	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	園芸の利用と効果 野菜・ハーブ・草花の栽培と活用	○暮らしと園芸 暮らしと園芸との関わり 園芸とその効果 広がる園芸の活用 ○野菜の栽培計画と管理 春から夏の野菜栽培 ○容器栽培 容器栽培の特徴と活用場面 容器栽培のポイント	○ ◎ ◎	 ○ ○	 ◎ ◎	○ ○ ○	a:生物活用の学び方、作物の栽培について、関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:生物活用の学び方、作物の栽培について、課題を見出し、その解決をめざして、思考を深め、判断・表現する姿が見られる。 c:生物活用の学び方、作物の栽培について、基礎的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d:生物活用の学び方、作物の栽培について理解し、基礎的な知識を身に付けている。	授業観察 ノート レポート 定期考査
2	野菜・ハーブ・草花の栽培と活用	○野菜の栽培計画と管理 夏から秋の野菜栽培 ○野菜の貯蔵･加工と活用 野菜の貯蔵･加工の特徴と活用方法 貯蔵･保存方法とその実際 加工方法とその実際	◎ ◎	○ ○	◎ ◎	◎ ○	a:作物の栽培について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:作物の栽培について、課題を見出し、その解決をめざして思考を深め、判断・表現する姿が見られる。 c:作物の栽培について基礎的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d:作物の栽培について理解し、基礎的な知識を身に付けている。	授業観察 ノート レポート 定期考査
3	草花の栽培と活用	○フラワーデザイン アレンジメントの基本とバリエーション フラワーアレンジメントの実際	◎	◎	○	○	a:生物活用について、関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:生物活用について、課題を見出し、その解決をめざして思考を深め、判断・表現する姿が見られる。 c:草花の活用について基礎的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d:生物活用について理解し、基礎的な知識を身に付けている。	授業観察 ノート レポート 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。